

錦光園

2022年10月13日

日本全国 47 都道府県

「すみからすみまで墨のおはなし」



奈良の伝統産業、墨づくりを営む墨工房「錦光園(きんこうえん)」は、この度、出張交通費¹、講師料無料で日本の47都道府県どこへでも伺い、墨の魅力と文化を伝えるワークショップ「すみからすみまで墨のおはなし」をスタートすることとなりましたのでご案内いたします。

2021年、錦光園は“1000年以上続く伝統工芸品「奈良墨」が、現在、存続の危機に直面している。奈良墨・書道の魅力を広め、文化と伝統を繋ぎたい！”と訴え、初めてクラウドファンディングに挑戦しました。当初はどの位の方々の賛同を得られるか心配ではありましたが、結果、目標金額の10倍以上もの資金を調達。多くの方々が日本文化の継承に関心を寄せていることを改めて確認し、墨文化に関わる者としてその責任の重さを実感しました。

「すみからすみまで墨のおはなし」は、2021年のクラウドファンディングで過分にいただいた皆様からの支援に応え、七代目墨匠 長野睦(ながのあつし)が、日本の歴史と深い結びつきのある墨の魅力と文化を伝えるために行う全国行脚プロジェクトです。墨に纏わる文化の歴史と魅力を分かりやすく説明する座学に加え、拾ってきた石で磨った墨で手紙を書くなど、オリジナルな切り口でワークショップなどを実施します。

「すみからすみまで墨のおはなし」全国行脚を行うわけ

① 1000年以上続く日本の墨文化と伝統の魅力を直接伝える

日本人は、文字を書くことに精神性を求め、それを文化にまで昇華させ、1000年以上その文化と伝統を守り続けてきました。書道は、日本文化を語る上で欠かすことのできない文化の一つです。しかし、その文化が存続の危機に直面しています。

¹ 会場が最寄り駅から遠方の場合、最寄り駅からの往復送迎だけをお願いします。

錦光園

レジャー白書 2020 によれば、2020 年時点の書道人口は 200 万人。5 年で 6 割減という衝撃的な調査結果が掲載されました。墨の魅力や存在を子ども達に伝えられる大人が少なくなり、固形墨の市場も年々縮小する中、錦光園は、墨づくりの職人として責任をもって子ども達に、そして大人達にも、墨、手書きの魅力を伝えていく必要があると考えています。

② 日本各地の伝統工芸とのコラボレーション

日本の各地にはこれからも繋いでいきたい様々な伝統文化、工芸が今も息づいています。各地の伝統工芸の担い手の方々とコラボレーションをする中で、埋もれている技術や魅力を再発見して行きたいと考えています。

③ 社会問題としてストレスが顕在化

『墨を磨る』事は単に墨液を作ることではありません。肩の力を抜き、かすかな磨り音や心地のよい香りを感じながら心を落ち着かせ、神経を集中し、気を高めるための時間でもあります。社会問題としてストレスが顕在化している今、墨には担うことの出来る役割があります。

④ 墨と SDGs

墨づくりの道具や材料は、すべて自然の恵みから作られています。天然資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応など、墨を作る、使うには、SDGs の多くの視点を見出すことができます。墨づくりの立場から SDGs を推進して行きます。

「すみからすみまで墨のおはなし」ワークショップの内容（一例）

① 日本の墨文化や固形墨についてのお話し

② 墨づくり実演

③ 墨磨り体験（石を拾ってくる、石を洗う、墨を拾ってきた石で磨る）

墨を磨るのは硯でなければならないと思われがちですが、硯はもともとは石です。文化の継承はルールを覚えることではなく知恵の継承です。体験を通して先人の残してくれた知恵の本質に迫ります。

④ 墨で書く（表面に手紙を書き、ウラ面に一文字を書く）

「墨に五彩あり」と言われる通り、墨は一色ではありません。多彩な色味があり、墨の諧調が生み出す色合いは人々の想像力を刺激して様々な色彩を感じさせます。墨を磨る強さや、水の量、硯になる石の種類によって赤っぽかったり青っぽかったり目に見えるほどに変化します。同じに見えても違う。違うことが違いを引き立てる。ダイバーシティ、インクルージョンの本質がここにもあります。

⑤ みんなが書いた手紙のウラ面を一齐に貼り出して記念写真

文部科学省は「[体験活動事例集－体験のスズメー](#)」の中で、“今後の教育において重視されなければならないのは、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」である。”とし、その理由を“体験活動は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されている。つまり、思考や実践の出発点あるいは基盤として、あるいは、思考や知識を働かせ、実践して、よりよい生活を創り出していくために体験が必要であるとされている。”としています。墨を使って実際に書いて/描いてみることで、豊かな人間性や価値観の形成に役立ててもらいたいと考えています。

「すみからすみまで墨のおはなし」全国行脚の今後の予定

● NPO 法人さぶみの 山のこども園 うしのしっぽ（島根県）

日時：2022 年 11 月 1 日（火）

● 島根県津和野町立日原小学校

日時：2022 年 11 月 2 日（水）

錦光園

- 愛知県林昌寺にて開催の「すみからすみまで墨のおはなし～書のみち春日井に、奈良墨の香り～」に参加し、にぎり墨体験などを実施。

日時：2022年11月13日（日）14:00～16:00（開場：13:30～）

一般の方々が参加可能です。イベントのお申し込みは、[こちら](#)へ。

「すみからすみまで墨のおはなし」に関するお問い合わせは

錦光園 HP へ

<https://kinkoen.jp/workshop/>

電話：0742-22-3319（電話受付時間 9:00-21:00）

錦光園について

江戸時より代々150年以上、伝統を守り昔ながらの製法で「奈良墨」を一つ一つ手作りで作り続ける墨工房。明治時代、奈良でも由緒ある墨工房「古梅園」の職人であった長野亀吉が独立・創業し、錦光園として新たな歴史をスタートさせました。以来、奈良に伝わる伝統的な製法による墨作りを今日に至るまで続け、現在は六代目墨匠・長野墨延と七代目墨匠・長野睦が、その伝統を守り続けています。

自社の未来と同様に常に産地の未来を考え、国内外に日本の墨文化、書道や水墨画の素晴らしさを伝え、墨作りの産地を守る『墨守』として、15年以上前から、工房内で一般向けに、墨に関する講義や製造の実演見学や、実際に参加者に墨を制作してもらう「にぎり墨体験」を実施しています。国内外含め年間4,000人以上が体験に訪れています。他にもインテリアとして喜ばれる「香り墨 Asuka」や「菓子木型墨」など、墨のもつ別の可能性を引き出す商品開発を始め、墨づくりに携わる職人を同業者の立場から取材し紹介する「奈良墨のひと」など、様々な墨や産地の普及活動を行っています。

<https://kinkoen.jp/>

- にぎり墨体験：工房内での墨に関する講義や、製造現場の見学、実際に墨を制作する体験を一般向けに実施。コロナ前の体験目的での来訪者は、国内外も含めて年間4,000人を数えるまでになりました。現在は工房での開催の他、「オンラインでの墨づくり体験」も行なっています。
- 教育現場でのにぎり墨体験：総合学習・社会科見学など授業の一環として小学校、中学校などに出向き、墨の歴史や概要の説明、材料の紹介、製造工程の実演、参加者全員が生墨に触れる体験講座を実施しています。
- 試し墨：墨は専門家でさえも「実際に磨って使ってみないとその良し悪しが分からない」謎の多い筆記具。往復送料無料、「書道具一式」の無料貸し出しで墨の貸し出しを行っています。

本プレスリリース、取材に関するお問い合わせは

wabunka pr design 担当 林（電話番号：03-6326-9823）

e-mail：press@wabunka-pr-design.com